

海外安全対策情報
(平成30年度第1四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第1四半期(平成30年4月～6月)の情勢は以下のとおり。

- (1) 4月2日、新首相としてアビィ・アハメド氏(オロミア州出身)が就任した。これにより、これまでオロミア州、アムハラ州を中心に相次いで発生していた反政府活動の減少が見られた。今回の新首相就任においては、エチオピア初の平和的な権力移行がなされたとされており、アビィ新首相は、主に国内の民主化や隣国エリトリアとの関係正常化を掲げている。
- (2) 国内治安情勢が安定化傾向にある事を理由に、2月から6ヶ月間継続の予定で発出されていた国家非常事態宣言が6月5日に解除された。
- (3) 6月中旬、ティグライ系住民らによる反政府デモの開催が報道されたが、中止となった模様。
- (4) 6月23日、首都アディスアベバ市の中心に位置するマスカル・スクウェアで開催されたアビィ首相を支持する大規模政治集会において、アビィ首相自身が演説を行った直後に、演説台付近で爆弾が爆発する事件が発生した。報道によると、本事件により150名以上の負傷者(うち死者2名)が発生し、現在、国内治安当局の他、FBI(米国連邦捜査局)らが捜査に当たっている。なお、邦人被害は発生していない。
- (5) オロミア州とソマリ州の州境沿いで継続的に発生している民族間衝突の他、5月～6月頃、南部諸民族州やベニシャングル・グムズ州において、州内の異民族間による民族間衝突が激化した。これらの鎮圧のため治安部隊が出動した。
- (6) 本年1月に政府・与党が発表した政治犯の釈放は、アビィ政権下でも継続。
- (7) 当地では、アル・シャバーブが2013年10月にアディスアベバ市内で爆弾テロを計画(未遂)するなどしており、依然としてテロ発生の可能性がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地においては、日本人を含む外国人を狙った強盗や窃盗事件が発生しており、第1四半期においても類似する被害が報告された。主な手口は次のとおり。

(1) 強盗事件

アディスアベバ市内において、強盗事件が発生している。早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首をしめられ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が認められる。

(2) 窃盗事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、スリが増加している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕をつかむ等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者のポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。犯人は一見して少年風など、若年層が多いと報告されている。

ミニバス(乗り合いタクシー)乗車中も、隣の乗客が液体を浴びせる等し、気を引いている内に携行物を盗んだ上で、社内清掃を装い被害者のみ降車させ、ミニバスごと逃走する事案が認められる。

(3) ぼったくり事件

アディスアベバ市内において、邦人に対するものも含め、ぼったくり被害が発生している。旅行者が滞在ホテル周辺を徒歩で移動していると、エチオピア人が「自分はこのホテルの関係者だが、いい飲食店を教えようか。」と近づき、「ホテルの関係者」と言われて安心し、勧められた飲食店に入って注文すると、高額の支払いを請求される手口が認められる。

(4) 当たり屋事件

車両走行中に牛・羊などの群れに遭遇し徐行した際、飼い主が急に車両前方に近づいて来て、車両に接触した素振りを見せ横転する。その後、警察へ届け出ない代わりに金銭を要求する手口が認められる。その際、車外に出て対応に当たっているドライバーへ周囲の取り巻きが暴行を加えるケースもある。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

邦人から凶悪犯罪被害の届出はないものの、依然としてスリや盗難被害については多数の届出を受けている。前段2(1)～(4)の手口を十分認識し、車両走行中の周囲の状況、また、スマートフォンや財布の携行管理には十分な注意が必要である。

4. テロ・爆弾事件発生状況

6月23日（土）アディスアベバ市のマスカル・スクウェアにおいて爆弾事件が発生。被害者150名以上（うち死者2名）。邦人被害者なし。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

国内において大きな災害は発生していない。

7. 対日感情

対日感情に係る問題は認知していない。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

現在、日本人を標的としたテロ行為は確認されていないが、政治集会場を狙った爆弾事件や住民による反政府デモに遭遇した場合、騒動に巻き込まれる可能性がある。

また、民族間衝突においては鎮圧のためしばしば治安部隊が投入されており、これらに遭遇した場合、投石や銃撃による受傷事故の危険性がある。

これらの状況を認識し、滞在先のホテルや車両移動中においても、周囲の状況には十分注意して行動する必要がある。